

富山市立図書館

図書館だより

第57号
2013.4

次世代OPACとは？

検索システムが変わります

1. OPAC とはなにか

現在、図書館ではオンライン蔵書目録検索システム（OPAC：オーパックまたはオパック：Online Public Access Catalog）を用い、資料の検索を行っています。これは、書誌情報とよばれる、タイトル・著者名・出版社・発行年・大きさ・分類・件名などの情報と、どこに所蔵しているかを示す所蔵情報をコンピューターに入力し、オンラインで検索できるようにしたものです。

従来の OPAC は、それ以前のカード目録をコンピューターに置き換えたものといったら分かりやすいと思われます。

しかしこれは、1文字でも間違えて入力すると該当資料がでてこない、「富山」「環境」など大きなくくりで検索すると、検索結果が大量になり、絞り込めないなど不都合な部分もありました。このため、Amazon など正確な書誌情報を調べ直して再度検索し直すこともあったと思います。

また、電子書籍や電子化された資料、文献データベースなどは検索対象となっていないため、図書館の重要な所蔵資料であるにもかかわらず、OPAC 検索ができないという不備がありました。

2. 次世代 OPAC とは

それでは、新たに導入される次世代 OPAC とは一体どんなものなのでしょうか。ディスカバリー

インタフェースとも呼ばれる、新しい検索システムを次世代 OPAC といいます。

主な特徴として次のような点が挙げられます。

① 総合的検索機能

これまでは、上記のように資料の書誌情報からの検索が主な使用法でした。しかし、次世代 OPAC では、目次・書評・内容などからフリーワードでの検索が容易になります。また、本や視聴覚資料だけではなく、図書館が独自に持っている電子データなども同時に検索対象となります。たとえば、図書館が画像データをもっている明治期の富山市街地図や売薬のパッケージ画像、特別コレクションの電子画像やこれまで蓄積しているレファレンスの回答事例なども検索結果に含まれることとなります。

② 絞り込み機能

キーワードを再入力することなく、検索結果をジャンル・出版年などで絞り込み、必要なものを抽出することができます。

③ サジェスト機能

一般的な検索サイトのように単一の入力ボックスへの語句の入力で検索することができ、サジェスト（入力支援）機能により入力キーワードの補完を行ないます。また検索結果をアイコン・画像などで表示することから視覚的に種別が判断できます。

また、直接語句の入力を行なわなくても検索結果を絞り込むことができます。

○導入状況

現在は、公共図書館よりも大学図書館での導入事例が多くあります。京都大学や九州大学付属図書館、筑波大学付属図書館、慶應義塾大学メディアセンターなどで導入が進み、所蔵資料とともに独自のデータベースや論文などを検索できるようになっています。公共図書館での導入事例は国立国会図書館、成田市立図書館などまだ一部の図書館のみです。富山市立図書館でも3月末より導入を開始しており、公共図書館としては先進事例の一つといえるでしょう。(サジェスト機能は、今後導入予定。)

使い方

書名に限らず、内容・解説文などからも検索できるため、特定の資料を探している場合だけでなく、

調査・研究に役立つ検索システムになっています。

①**詳細表示**：検索結果の一覧に、今までよりも詳細な情報が記載されます。

②**絞込み機能**：検索結果をさらに資料形態・主題(件名)・所蔵館・著者名・出版年などの切り口から容易に絞り込むことができます。

③**外部リンク**：検索で使用したワードを引き継いだ状態で、他図書館(県内横断検索、国立国会図書館)での検索が可能です。

次世代 OPAC を導入することで、従来よりも広い範囲から必要な情報を得ることができるようになりました。これまで知らなかった新しい世界に触れるきっかけになればと思いますので、ご活用ください。(本館 山崎)

【検索画面画像】

◆検索画面

フリーワードで検索できます

例えば「源氏物語」と入力すると……

◆一覧画面

富山市立図書館 Toyama City Public Library

② 資料形態

- 図書 (792)
- 児童 (25)
- AV
- 映像資料 (24)
- デジタル資料
- 自筆資料 (1)

① 検索結果一覧

ハイライト ON

851件中1から10件目を表示しています

② 著者名

- 紫式部/著 (200)
- 谷崎潤一郎/訳 (76)
- 山田孝雄/題 (34)
- 田辺聖子/著 (27)
- 橋本治/著 (26)

③ 外部リンク

- 富山県内図書館横断検索
- 国立国会図書館
- 学術情報(GeNii)

・中央に検索結果一覧が出ます

①資料種別を表すアイコン

②絞込み機能

③外部リンク

・資料を選択すると詳細がわかります

こども図書館がオープンしました！



エントランス



3月23日、CiCビルの4階（えきみなみ 駅南図書館「ぶらり」向かい）に、こども図書館がオープンしました。

こども図書館は、子育て支援センターとの複合施設で「とやまこどもプラザ」を愛称としています。

子どもと保護者が読書を楽しんだり、保護者同士が気軽に集まり交流や情報交換ができる場を目指しています。

施設の特徴

波型の書架や円形の書架など、ユニークな形の書架が並び、探検したくなるような雰囲気です。

また各所に、座ったり寝転んだり思い思いの姿勢で読書ができるような場所を設けています。



児童図書コーナー

こども図書館は、今まで図書館を利用しなかった方など、広く市内外からの子ども連れの方に気軽に利用していただきたいという思いから、子どもたちに人気のマンガや、親子で体を動かして遊べるゲームコーナーも設けています。



赤ちゃん絵本コーナー



たくさんの児童書のほかにも、育児書や情報誌など、バラエティに富んだ資料をそろえております。みなさまのご来館をお待ちしています。

ご利用案内



開館時間 10：00～18：00

休館日 CiCビル休館日

（3月と12月以外の第3火曜日、2月の第3水曜日）

年末年始（12月29日～1月3日）

とやま駅南図書館「ぶらり」も開館しました

こどもプラザ整備のため、休館しておりましたとやま駅南図書館も3月23日から同時に開館しております。*開館時間10：00～21：00

（本館 牧田）

レファレンスあれこれ

Q. テレビドラマ「八重の桜」で<什の掟（じゅうのおきて）>というものが取り上げられたが、この掟の内容を知りたい。

A. 「八重の桜」は、幕末期に戊辰戦争で活躍した女性、新島八重の生涯をえがいたテレビドラマである。今回は、八重の生まれ育った会津藩（福島県）で行われていた教育に関するレファレンスを紹介する。

はじめに、福島県や歴史に関する事典を調査する。『福島大百科事典』（福島民報社 1980）、『国史大辞典』（吉川弘文館 1986）などを確認する。

会津藩についての概説や、藩校である日新館、白虎隊などの記述はあるが、<什の掟>については書かれていなかった。

次に藩政や藩校に関する資料を調査する。『近世藩制・藩校大事典』（吉川弘文館 2006）、『藩史大事典』（雄山閣出版 1988）などの事典類で<会津藩>についての記述を確認する。会津藩藩主である保科正之が制定した『家訓十五箇条』などの説明はあったが、<什の掟>に関する記述は見つからなかった。その他に一般書を調査すると、会津藩の教育方法について紹介されている文献がいくつか見つかった。

そのうち『藩校・私塾の思想と教育』（日本武道館 2011）では、「三 会津藩の武士教育と会津魂【日新館】」の項目で<什の掟>について紹介されている。

会津藩では、藩校に入学する前の子どもたちが<什（じゅう）>と呼ばれる地域グループをつくり、規律ある生活を送っていた。そこで使われていたのが、<什の掟>と呼ばれる道徳規範である。<什の掟>は7つの条項から構成されており、この掟を什長が読みあげ、それぞれの自己反省を行う時間があつた。掟に背いた者には罰則があり、それによって自戒を促したとされる。

<什の掟>の内容は以下のとおりである。

- 一つ、年長者のいうことに背いてはなりません。
 - 二つ、年長者にはお辞儀をせねばなりません。
 - 三つ、虚言をいうことはなりません。
 - 四つ、卑怯な振る舞いをしてはなりません。
 - 五つ、弱いものをいじめてはなりません。
 - 六つ、戸外で物を食べてはなりません。
 - 七つ、戸外で婦人と言葉を交えてはなりません。
- ならぬものはならぬものです。

あわせて、出典として示されていた『人づくり風土記』（農山漁村文化協会 1990）を確認する。7巻に会津藩の地域社会と教育についての記述があり、<什の掟>として、同様の7条項が紹介されていた。

このほかに、会津藩や白虎隊に関する資料を調査すると、上記の掟と同様の心得が多く資料で紹介されている。そのうち、『会津白虎隊のすべて』（新人物往来社 2002）では、違背者がいた場合の制裁法についての記述がある。制裁には「無念」と呼ばれるお辞儀や、竹箆（しっぺ）などがあり、最も重いものは「派切る」と呼ばれる絶交があり、父兄が付き添い絶交の解除を請わねばならなかったとある。

また、『会津藩校日新館と白虎隊』（新人物往来社 1988）では、違背したかどうかを審議する際に、什長が判断できない場合は、さらに年長者の意見をあおぐ例などが紹介されている。

今回紹介した資料の他にも『会津武士道』（PHP 研究所 2007）や、『白虎隊と会津武士道』（平凡社 2002）などから、会津藩の精神や道徳規範についてうかがい知ることができる。

（本館 山木）